

【4学年のまとめ】

1. 学年の取組

中学年の目指す議論する姿は「相手の感じ方と自分の感じ方を比べて考える。」ことができる児童、価値についてさらに考えを深めることができる児童の育成を目指して、研修に励みました。4学年では、以下の4つについての取り組みを行いました。

1つ目は、アンケートの活用です。児童の実態を把握するためにアンケート調査を行い、授業の導入で活用しました。そのことで、短い時間で価値の方向付けをすることができ、中心発問の話合いの時間を確保することができました。

2つ目は、考えが深まる意図的な問い返しです。児童の考えを聞くだけでなく、「なぜ」「どうして」と問い返すことで、なぜ自分がそう考えたのか深く考えることになり、これまでの自分と照らし合わせて考えられるように問い返しを意識しながら授業を行いました。さらに、同じ考えでも、理由が違うこともあるので、「〇〇さんはどう思いますか。」というように、自分事として考えられるような問い返しもしました。

3つ目は、児童同士で話し合う工夫です。道徳の授業でより話し合いを深めることができるように、「話し合いをするときにはカード」を教室内に掲示し、他教科でも活用することで、自分と友達の考えを比べながら話し合いを進められるようにしました。また、こころのものさしを使い、自分の立場をはっきりさせてから話し合いを行わせることで、より話しやすい雰囲気を作ることができました。しかし、中学年では、児童同士での話し合いは難しく、教師が中心となって、話し合いを進めていく必要があると思いました。

4つ目は、ワークシートの活用です。一時間の取り組みを振り返ることができるように、ワークシートの中に振り返りの欄を設けました。振り返りの欄の中には、「別の考えに気づいたか」といった項目を作り、自分の意見と相手の意見を比べながら価値について考えさせました。また、今までの自分の行動を振り返らせ、これからの生活の中で生かしていこうとする気持ちを育てました。

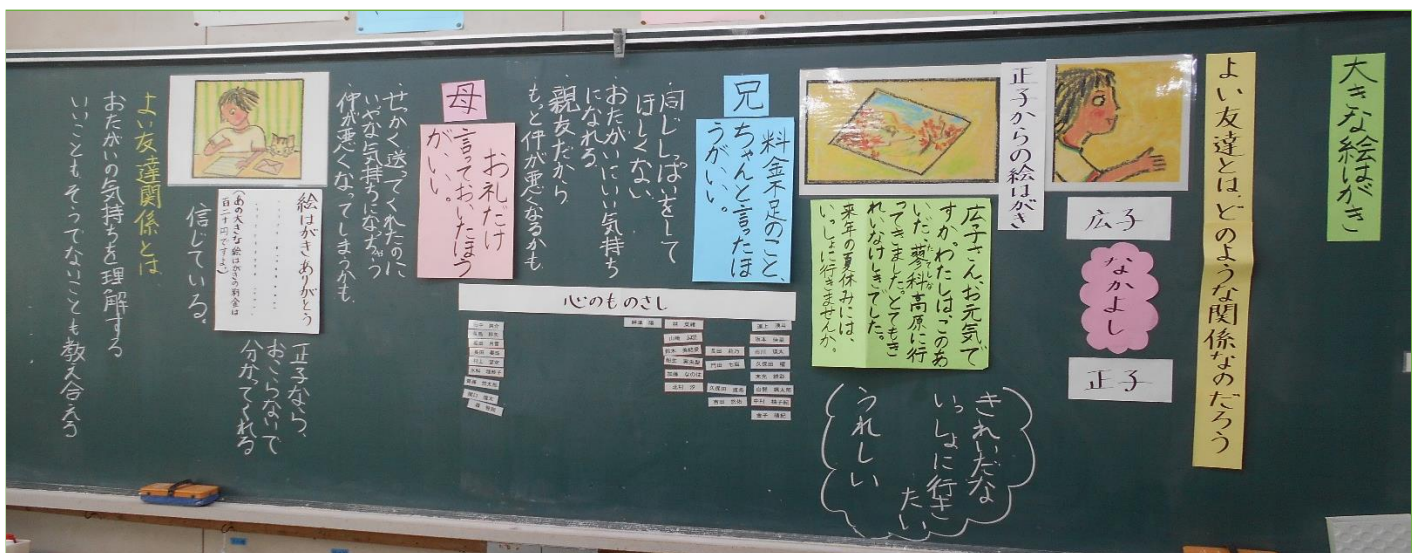
2. 授業実践について

主題 友達への注意 内容項目【B-4 友情、信頼】

本時のねらい 登場人物が友達に本当のことを話すか話さないかを考える活動を通して、よい友達関係には、ときには助言し合えるような信頼関係が必要なことについて気づき、友達とよりよい関係を築いていこうとする態度を育てる。

教材名 大きな絵はがき (出典「新しいどうとく」東京書籍)

授業者 4年2組 山中 諄博



【授業の流れ】

- ① 「友達がいてよかったことはありますか。」という発問を投げかけ、問題意識を持つ。
- ② 教材「大きな絵はがき」の内容を読み聞かせを聞き、教材文について考える。
 - (1) 転校していった仲良しの正子から絵葉書をもって、広子はどんな気持ちになっただろう。
 - (2) あなたが広子と同じような絵はがきをもったらどうしますか。(主発問)
- ③ 広子はどのようなことを考えて返事を書き始めたでしょう。
- ④ 自己を振り返る。
 - ・今までに「友達のために」と考え何かしたことはありますか。また、その時にどのような気持ちやっていましたか。
- ⑤ 授業をまとめる

児童の振り返りより

- ・廊下を走っている友達に「走ってはいけないよ。」と言ったことがある。
- ・授業中にしゃべっている友達に静かにするように言ったことがある。
- ・ルールを守っていない友達がいたけど、嫌われるか心配で言えなかった。
- ・友達のためだと思って、ダメなことをしていた友達に注意した。
- ・仲の良い友だちには注意することができなかったので、これからは、注意できるようにしたい。

3. 成果と課題

- 心のものさしを使うことで、考えを視覚化できたり、考えが変わったときでもすぐに変えたりことができた。
- 発問を短くすることで、中心発問に長い時間使うことができた。
- 場面ごとにキーワードを掲示することで、どのようなことを考えればよいかははっきりすることができた。
- 相手の立場だったという発問から、多様な考え方ができたのではないかと思う。

- ▼心のものさしが登場人物目線なのか、自分目線なのが分からなくなってしまった。
- ▼登場人物の立場をもっと強調してもよかったのではないかと思う。
- ▼問い返しの方法がパターン化していたので、場面に応じた問い返しも必要である。
- ▼どちらの意見の方が良い友だち関係なのかははっきりさせた方がよかった
- ▼多数派の考えがたくさん出てきて、少数派の考えが出しにくい雰囲気になってしまった。
- ▼テーマに戻らずに振り返りをしたため、テーマに戻ってから振り返りをさせた方がよかった。